

「二〇〇一―一〇年は国連
「世界の子どものための
の平和と非暴力の十年」。
これを広めようと、身の回
り品を詰めたバギーを押し
ながら世界中を歩いてい
る。九月中旬に入国した日
本は二〇〇〇年にカナダを
出発してから五十四番目の
国。青森から鹿児島まで三
カ月かけて南下中だ。
事業に失敗し「何か意義
のあることをして人生を変
えたかった」。世界行脚の
計画に、妻は言った。「応
援するわ。どうせなら「子
どもの十年」のために歩き
なさい」

「子どもに平和を」と訴え 歩く 世界中を徒歩で ジャン・ペリポーさん

この人



■ 本当の活動は旅が終わってから始まる

南米やアフリカで、貧困 十九足首です」

や暴力がまん延する中で、
ら子どもを目の当たりに
し「歩くことで力になりた
い、なれるのではないかと
思うようになった」。

国連や企業の支援はな
く、出会った人に思いを伝
えるだけの旅。「歩いた距
離は五万四千キロ。泊めてく
れた民家は十二百。靴は三
五十三歳。(宗像道子)

自宅には帰らず、妻は年
に一回、旅先に会いに来
る。「経験したことをどう
生かすか。本当の活動は旅
が終わってから始まる」。